

研究会名	内容
2008年度 第294回ガスクロマトグラフィー研究会 GC 懇設立50周年特別講演会 「ガスクロの過去・現在・未来」(52ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガスクロ自由自在、もっと知りたいガスクロの基礎</li> <li>○シリンジニードルー体型固相カートリッジ(MEPS)とその使用例について</li> <li>○Low Thermal Mass (LTM) GCを用いた最新の2次元GC-MSシステム</li> <li>○GC-TOFMS用EI/FI共用イオン源の開発と測定例</li> <li>○LECO TruTOF HT GC-TOFMSのHigh Throughput分析への応用</li> <li>○GC/MSMSの「使いみち」と「使い方」</li> <li>○ClearViewTM/バックグラウンド処理ソフトウェアの紹介</li> <li>○FlashGCによるラボ、オンサイトでのVOCの超高速分析</li> <li>○定性に検出器特性を生かしたGCシステムの紹介</li> <li>○ガスクロの過去・現在・未来</li> <li>○熱分解GC/MSを有効活用した高分子材料分析システムの開発</li> <li>○創業から現在まで: 確固たる学問に裏打ちされた独創的な製品開発とその裏話</li> <li>○日本のガスクロ50年 - 島津製作所の開発の歴史 -</li> <li>○日本のガスクロ50年 - キャピラリーGCの普及と発展 -</li> <li>○日本のガスクロ50年</li> <li>○クロマトグラフィーと歩んだ46年</li> <li>○GC 大量注入法の開発とその展開について</li> <li>○Preconcentration of PAHs in environmental samples and analysis with gas chromatography-mass spectrometry</li> </ul>
2007年度 第286回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「地球規模の環境汚染」(110ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○黄砂の長距離輸送と東アジアの大気環境</li> <li>○POPsおよびPOPs候補物質の地球規模の汚染の過去復元と将来予測</li> <li>○塩素系芳香族化合物の全異性体分析と環境モニタリング</li> <li>○PFOSの測定と汚染の現状</li> <li>○大気中の有害大気汚染物質の安定同位体比計測による発生源推定法の研究</li> <li>○シリンジニードルー体型固相カートリッジ(MEPS)を用いた新しい前処理の形-MEPS</li> <li>○ポリマーの光・熱・酸化劣化評価法のための、新しいオンラインUV/Py-GC/MS法の開発といくつかの応用分析例</li> <li>○GC/MS/MS分析のご紹介</li> <li>○キャピラリーフローテクノロジーを用いたアプリケーションの紹介</li> <li>○MDGC/MSシステムの環境分析への適用</li> <li>○GCxGC-MSの環境分析への応用</li> </ul>
2006年度 第279回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「クロマトグラフィーで迫る話題物質の分析」(84ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最近の話題物質概論</li> <li>○食品中残留農薬の分析</li> <li>○土壌の油汚染について</li> <li>○臭素系難燃剤と有機臭素系化合物の微量分析技術と課題</li> <li>○直接加熱導入GCxGC-MSによる沿道大気中ナノ粒子の分析</li> <li>○Miniaturized, automated and solventless sample preparation techniques applied to quality control in food and consumer protection</li> <li>○多機能パイロライザーを用いた熱脱着GC/MSによるPBDEsの迅速定量</li> <li>○農薬及び環境ホルモン用データベース(926化合物)を用いる食品中残留農薬のGC/MSスクリーニング分析</li> <li>○トリプルデータベースを利用したGC/MSによる環境汚染物質等の包括的分析</li> <li>○GC試料注入口冷却によるプレカラム濃縮法</li> <li>○超高速GC-TOFMSの展開例</li> </ul>
2005年度 第271回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「食品中の残留農薬に係わるポジティブリスト制度とクロマト分析」(118ページ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農薬の種類と役割</li> <li>○食品に残留する農薬等のポジティブリスト制度の役割と進捗状況</li> <li>○食品のポジティブリスト制度におけるGC/MS分析の役割</li> <li>○食品のポジティブリスト制度におけるLC/MS分析の役割</li> <li>○農薬分析の課題と現状</li> <li>○食品分析のための前処理技術の紹介</li> <li>○ライナー自動交換可能なPTV注入口による高マトリックス試料の大量注入</li> <li>○胃袋型インサートを用いたGC大量注入による残留農薬一斉迅速分析法とLC-GCシステムによる確認分析法</li> <li>○エアールフォーカシングによるPBDE等のピーク形状の改善</li> <li>○非放射線電子捕獲検出器による有機塩素系農薬分析</li> <li>○GC/MS(SIM/Scan同時取り込み)による農薬多成分一斉分析</li> <li>○負化学イオン化法GC/MSによる作物中農薬の多成分一斉分析</li> <li>○GC/MS/MSを用いた食品中の残留農薬多成分分析</li> <li>○GC/MSデータベースを用いた農薬の網羅的測定について</li> </ul>

<p>2004年度 第265回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「”におい”とガスクロマトグラフィー」 (87ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○嗅覚メカニズムと香りの分析</li> <li>○悪臭公害の特徴とその対策</li> <li>○生活空間中の臭気成分の分析</li> <li>○悪臭物質の測定</li> <li>○食品香気の新技術 “GC x GC” を中心にー</li> <li>○GCとSniffing検出器</li> <li>○新しい悪臭物質濃縮・分析手法のご紹介</li> <li>○大容量ヘッドスペース/GCによる匂い成分の高感度分析</li> </ul>
<p>2003年度 第261回ガスクロマトグラフィー研究会 「分離と精製」(70ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○香料研究における微量有効成分の分離精製</li> <li>○有機試薬における精製手法 - 高純度化を目指して -</li> <li>○においの識別装置FF-2Aを用いたにおいの識別と質の測定</li> <li>○微量成分の濃縮導入のためのシリカモノリス材料</li> <li>○2次元GCによる分離と分取</li> </ul>
<p>2003年度 第260回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「難分解性有機汚染物質(POPsなど) のクロマト分析」(70ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○POPsなどの難分解性有機汚染物質に関する最近の動向</li> <li>○わが国におけるPCB問題とその廃棄処理の進展</li> <li>○国際整合性を持つPOPs標準物質の整備状況と認証のための分析技術</li> <li>○PFOS/PFOAの分析と分布実態</li> <li>○“包括的”2次元GCの原理とPOPs分析などへの応用</li> <li>○GCMS-QO2010によるPOPs(主に農薬)の測定</li> <li>○ディーゼル排ガス中の多環芳香族のGC分析</li> <li>○特徴的な検出器やデータ処理のPOPs分析などへの応用事例</li> </ul>
<p>2002年度 第254回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「食物の安全性管理とクロマトグラ フィー」(130ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最近の食物安全性をめぐる問題</li> <li>○食品の安全性に関連する規格基準</li> <li>○食品中の残留農薬などの分析</li> <li>○動物性食品中の有機塩素系化合物の分析</li> <li>○冷凍試料粉碎器の開発</li> <li>○迅速・簡便・廉価な試料前処理用「固相抽出素子“Magic Chemsorber”」の製品化</li> <li>○新規試料導入手法DTD/DMI(Direct Thermal Desorption/Difficult Matrix Introduction)による農薬分析</li> <li>○マイクロスケール パージ&amp;トラップ(MPT)-GC-MS</li> <li>○GC/MSによる食品中の残留農薬分析</li> <li>○パルス炎光度検出器による残留農薬の高感度分析</li> </ul>
<p>2001年度 第247回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「健康管理へのガスクロマトグラフィー の利用」(107ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○臨床検査における化学分析の役割</li> <li>○ガスクロマトグラフィー・質量分析法(GC/MS)を用いる先天性代謝異常症の診断シス</li> <li>○ビデオ紹介「GCの分析法の紹介」</li> <li>○有害物質に対する生体反応解明へのクロマトグラフィーの利用</li> <li>○尿中、血中のVOCsのGC計測</li> <li>○質量分析計をツールとする生体試料中の薬物・毒物およびその代謝物の分析</li> <li>○SBSE(Stir Bar Sorptive Extraction)を用いるGC/MS法の紹介</li> <li>○ダイナミックヘッドスペース・GC/MS法による環境ホルモン調査項目の分析</li> <li>○機器分析による口臭測定</li> <li>○SPMEを用いたカビ臭の分析及びその他の分析例紹介</li> <li>○室内環境における建材からの発生ガス測定手法の紹介</li> <li>○室内空気汚染物質の測定、固相吸着-加熱脱着-GC/MS(チューブ法)</li> </ul>
<p>2000年度 第242回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「ガスクロマトグラフィーの先端技術」 (120ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガスクロマトグラフィーの最先端</li> <li>○最近のキャピラリーについて</li> <li>○イオントラップ型GC-MSによるダイオキシンの迅速分析</li> <li>○GC-MS/MS分析の有効性</li> <li>○マルチディメンショナルGCの実際</li> <li>○高速化の手法とポイント</li> <li>○ポータブルGC-MSとは</li> <li>○固相抽出-大量注入/GC-MSによる自動オンライン分析</li> <li>○ダイオキシン前駆体自動分析</li> <li>○マイクロジェット・クライオトラップの開発</li> </ul>

	<p>○SOL-GEL技術の進展開</p>
<p>2000年度 第239回ガスクロマトグラフィー研究会 GC「研究懇談会40周年記念講演員」 (73ページ)</p>	<p>○GCによる環境分析の変遷, 歴史と未来 ○GC/MS法による定量分析の実用化と発展 ○大気中および排ガス中の揮発性有機化合物の分析 ○多目的パイロライザーと金属キャピラリーカラムの発展 ○GCによる有機スズ化合物の高感度・迅速分析</p>
<p>1999年度 第236回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「人命に係わる危機管理における化学分析の役割と実際」(87ページ)</p>	<p>○化学物質の毒性とその発現機構 ○健康危機管理について ○犯罪鑑識とガスクロマトグラフィー ○松本サリン事件における原因物質の検索とその分解物の挙動 ○ポータブルGC/MS HAPSITE ○可搬型GCMS VIKING 573 の紹介 ○ポータブルGC による可燃性ガスなどのオンサイト迅速分析 ○EGIS麻薬、爆発物探知機の有効性について ○PAS技術を用いた携帯型分析器による有害ガス測定</p>
<p>1998年度 第229回ガスクロマトグラフィー研究会 特別講演会 「内分泌攪乱化学物質のGC分析」 (135ページ)</p>	<p>○内分泌攪乱物質問題の概要 ○外因性内分泌攪乱物質と分析科学 ○環境水中のフタル酸エステル、アルキルフェノールおよびビスフェノールAの分析 ○ノニルフェノールおよびオクチルフェノールの生物濃縮実験とGC-MS分析 ○ムラサキイガイ中の有機塩素化合物の分析 ○エストラジオール17-βの分析 ○内分泌攪乱物質の標準品について ○内分泌攪乱物質分析における固相抽出法とGC大量注入法の利用 ○内分泌攪乱物質分析のGC条件 ○内分泌攪乱物質分析における負化学イオン化法GC-MSの応用 ○内分泌攪乱物質分析の磁場型及び四重極MSにおけるデータ比較</p>